２０振第５５号

平成２０年１０月１０日

国土交通省道路局長　殿

清内路村長　櫻 井 久 江

今後の道路行政についての意見・提案について（提出）

平成２０年９月１９日付国道企第３７号にて依頼の標記については、別紙のとおり提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

長野県　清内路村

山間へき地の衰退は、生活基盤・経済基盤の根幹である道路整備の遅れを第一にあげなくてはならない。道路に対する期待度、道路整備の進捗状況は、都市部と地方では大きな格差がある。確かに人口が少なく企業も少ないために利用頻度を見ると都市部とは比べものにならない厳しいものがあるが、都市部への人口集中を是正し均衡ある日本の発展を求めるならば、地方の遅れているところの道路整備は、費用対効果にとらわれず今後も積極的に進めるべきである。

そういう意味で、道路特定財源が一般財源化となるが、今後の道路整備は、より山間へき地に焦点を当てた重点配分をお願いしたい。

今後の道路行政についての意見・提案
②－1　地域の現状と抱える課題

様式 ②
長野県　清内路村

○現状	○課題
国道 256 号が村の中心部を南から北へ縦貫しており、飯田市へ 40 分、岐阜県中津川市へ 50 分、中央自動車道を利用して名古屋市へ1時間 30 分の山間へき地としては比較的恵まれた位置にあるものの、平成 17 年の国勢調査による人口は 777 人で、昭和 50 年の 1,009 人から 232 人減少し、老齢人口割合も 35%を超え、依然として減少に歯止めがかからない状況が続いており、しかも平成 19 年度の出生児はゼロという憂うべく事態となった。	少子高齢化、人口の減少に加えて厳しい財政事情を踏まえる中で、隣村である阿智村との合併協議を重ね、平成 21 年 3 月 31 日に阿智村への編入合併の見通しがたったところであるが、合併したとしても厳しい状況は続くと予想される。今清内路として抱える人口減少の歯止め、若年人口の確保は喫緊の課題である。 一方では、清内路地域ならではの伝統文化の保存伝承や伝統野菜の保存伝承、郷土食や新たな地域振興として芽生えている産業振興など楽しみな施策もあり、将来に向け発展振興すべく基盤づくりが求められている。そのような中で、本村には国道 256 号が 1 本縦貫するのみであり、この道路が寸断されると陸の孤島となる。地形が悪く条件は厳しいが、幹線を補う道路整備が求められる。

今後の道路行政についての意見・提案
②－2　地域の目指すべき将来像

様式 ③
長野県　清内路村

平成 21 年 3 月 31 日に隣村の阿智村と合併すべく国へ申請中である。120 年の歴史を刻んできた清内路村としての自治体を閉じることになるが、阿智村の一員として清内路地域の振興を図らなくてはならない。その道標であり指標となるのが合併してもしなくても清内路の今後の指針として、平成 19 年 3 月に策定した村づくり指針「一人ひとりできることから始めよう（やらまい改（か）えまい清内路）」及び阿智村・清内路村が合併した場合の「新しい村づくり計画」を基本とした地域をづくり進めることとしている。

清内路地域の目指すべき将来像は、村づくり指針で定めた長野県の伝統野菜に認定されている「清内路かぼちゃ」「清内路きゅうり」「黄いも」「赤根」を代表とするこれらの宝を産業に結びつける郷づくり。そして訪れてもらえる地域、住んでもらえる地域を作るために自ら学び又交流することを大切に、多くの人が訪れ住みついてもらえる郷づくりが目指すべき将来像である。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

長野県　清内路村

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域産業経済力の向上	国道256号の全線早期改良整備の推進	昭和37年に国道に昇格した256号は、村内を縦貫する唯一の幹線道路で住民の期待するところ極めて大きい。当時は幅員4メートル足らずの急カーブ、急勾配連続の砂利道で、隣接の阿智村へ 10 キロほどの距離で 1 時間を要した。国道に昇格して半世紀近くの時を経た今、改良も順次進められてきたものの、いまだ狭隘で急カーブの区間が存在している。 少なくとも国道 19 号に接続するまでは早期の改良が望まれ、それによって中津川市と飯田市の中間点にある有利な立地条件が最大限生かされることが期待できる。	